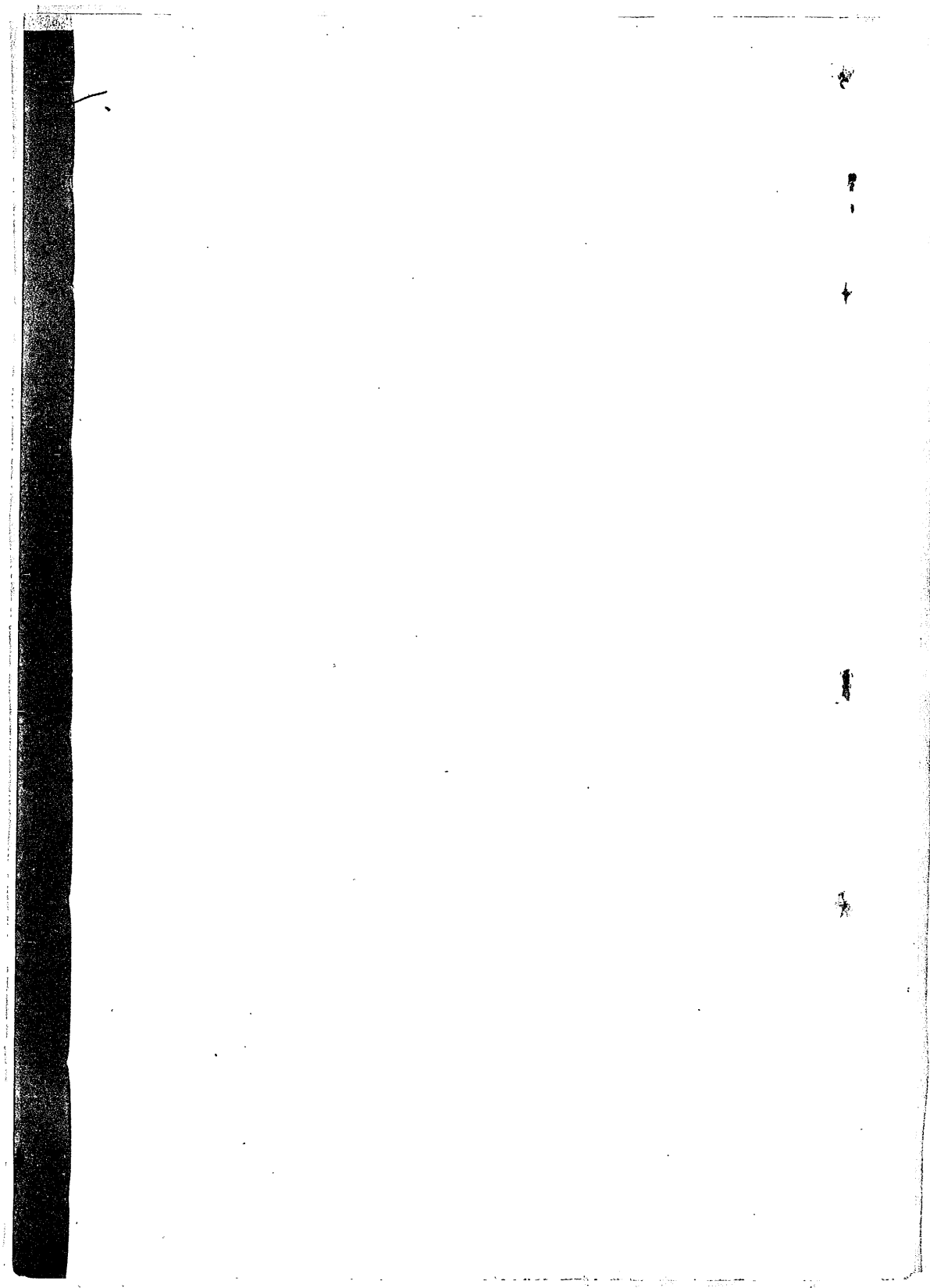




I-0541

0027

公 信 案	外 務 省	分取計相成度 追分自官以格明 別紙其信信台 様通其滿洲國側	夕趣 施行細則等轉送方依頼申越 別添、以テ送付スル、付民政部へ轉交方可	夕趣 夕趣、以テ別紙同種衛生組合設置規程及全
-------------	-------------	---	--	--------------------------------------

分類 13102

文書課長	文書課發送	昭和拾壹年參月拾參日發送濟淨書	正校(原稿)	昭和拾壹年參月拾貳日附	附屬	ア	昭和拾壹年參月拾貳日附	附屬	ア	昭和拾壹年參月拾貳日附	附屬	ア
主 任	東亞局長	東亞局長	東亞局長	東亞局長	東亞局長	東亞局長	東亞局長	東亞局長	東亞局長	東亞局長	東亞局長	東亞局長
受 信 人 名	在滿 南 大 使	在滿 南 大 使	在滿 南 大 使	在滿 南 大 使	在滿 南 大 使	在滿 南 大 使	在滿 南 大 使	在滿 南 大 使	在滿 南 大 使	在滿 南 大 使	在滿 南 大 使	在滿 南 大 使
件 名	北海道衛生組合設置規程轉送、件	北海道衛生組合設置規程轉送、件	北海道衛生組合設置規程轉送、件	北海道衛生組合設置規程轉送、件	北海道衛生組合設置規程轉送、件	北海道衛生組合設置規程轉送、件	北海道衛生組合設置規程轉送、件	北海道衛生組合設置規程轉送、件	北海道衛生組合設置規程轉送、件	北海道衛生組合設置規程轉送、件	北海道衛生組合設置規程轉送、件	北海道衛生組合設置規程轉送、件
發 信 人 名	廣田大臣	廣田大臣	廣田大臣	廣田大臣	廣田大臣	廣田大臣	廣田大臣	廣田大臣	廣田大臣	廣田大臣	廣田大臣	廣田大臣
記 録 件 名	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生
外 務 省	外 務 省	外 務 省	外 務 省	外 務 省	外 務 省	外 務 省	外 務 省	外 務 省	外 務 省	外 務 省	外 務 省	外 務 省

12 57

I-0541

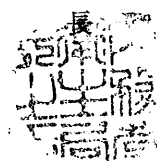
0028

外務省
衛生局
分類 1. 3. 1. 0. 2

衛保第一五八號

昭和十一年三月十九日

内務省衛生局長



滿洲帝國民政部衛生司長殿

衛生組合ニ關スル照會ノ件

康德三年二月十八日付民衛發第一六五號ヲ以テ標記ノ件御照會ノ處
衛生組合ノ狀況ニ付テハ最近ノ事實ニ就キ調査中ニ有之、調査完了
ノ上回答可致候條御了知相成度

内務省衛生局

I-0541

0029

分類 I3.10.2

歐亞局長

機密第九三號

昭和十五年六月二十一日

在密山
領事 住野 銀次郎

在滿洲國
特命全權大使 梅津 美治郎、殿

密山縣金廠溝正面地區コンツ、ラーゲリ
ノ衛生狀況報告ノ件

五月十二日不正入滿者ヨリ聴取セシ本件別冊ノ通り報告ス

本信寫送付先
外務大臣 在滿各公館長

密山縣金廠溝正面地區コンツ、
ラーゲリノ衛生狀況（乙下）

北多口三郎氏保存の衛生手帳

第一課



38

I-0541

0030

附記

本情報ハ康德七年五月十二日密山縣金廠藩ニ不正入籍を以テ見
囚人波斯人バシーリノ陳述ニ係ル

2. 本名ハ智識程度低キ爲病名症狀等ニ付詳細知リ非ス
3. 病人、病氣、死亡率等ハ數字的ニ曖昧ナル點多シ

目次

- イ、第一ラーゲリ附近ノラーゲリ大病院
- ロ、第九ラーゲリ附近ノラーゲリ大病院
- ハ、第三ラーゲリヲ改造シタル大病院
- ニ、各ラーゲリ内ノ小病院
- ホ、其他
- ヘ、所見

(別圖一、二三参照)

イ、第一ラードリ附近ノラードリ大病院

(註、バシリハ此ノ病院ニ康德六年十一月一十二月ニ亘リ入院セリト)

一、病院ノ位置

第一ラードリヨリ東方ニ至ル道路ニ沿ヒテ、五軒ノ地點、小河ノ北方ニ在リ(註小河ト稱スルハ「右」シツツハ河ナルモノノ如シ)

二、病院ノ創設年

一九三九年中ニ建設セラレタルモノニシテ完成ノ月ハ不明ナリ

三、病院ノ目的及收容力

囚人患者ヲ收容スルモノニシテ一九三九年十一月現在五〇〇名ノ患者ヲ收容シ居レル旨ヲ同病院ノ看護卒ヨリ聞キタリ當時ノ狀況ハ收容能力ニ比シテ患者著シク多ク定員二名ノ棚床ニ四名カ臥床シ居リタリ、右入院患者ハ何レモ男子ナリ

(註、右ニ依レハ本病院ノ收容能力ハ二五〇―三〇〇名位ナルモノノ如シ)

四、醫師

一、醫師長(女)アルメニヤ人氏名不明(三五位)

右女醫カバシリニ洩シタル處ニ依レハ此ノ女醫ハアゼルバイヂ

ヤシヨリ追放セラレタルモノナリト

二、露人醫師(男)氏名不明二名(レフヨムト稱セラレ正式ノ醫師ニ非ス)

三、アルメニヤ人醫師(男)氏名不明一名

計 四名

(註、醫師間ノ談話ニ依レハ近ク刑期満了ノ筈ナル由ニ付醫師ハ何レモ囚人ナル可シ)

五、病院勤務者

前記ノ醫師四名ノ外看護卒(男)十二名、掃除婦、乳搾リ、雜役婦等ノ婦人勞働者合計約二五乃至三〇名アリ

其他男子雜役夫一五名位事務員ノ數ハ不明以上ハ何レモ囚人ナリ

六、收容患者ノ民族別

最モ多シ 土耳古族

次 位 ワズベク族

三位 トルクメン族
四位 露人
五位 支那人

七 收容患者病名別

八 最モ多キモノ

パノールス

下痢

收容患者數ノ三〇―三五%位

症狀 甚シキ者ハ一〇分―一五分間隔キニ下痢シ發熱アリ

一晝夜ニ四〇回位下痢スルモノアリ

三日―五日―一ヶ月位右ノ症狀ヲ呈シタル后三〇人中ニセ

八名位ノ割合ニテ死亡ス

(註、バシールリハ單ニ下痢(パノールス)トノミ稱シ赤痢(タ

ロヴァヴィー、パノールス)ナルヤ否ヤ不明ナルモ傳染病ナ

ル事ハ相違ナキモノノ如シ

次ニ多キモノ 壞血病(ツインガ)

收容患者數ノ10%位アリ

症狀 下肢ハ黒ク腫レ上リテ疼痛ヲ伴ヒ歩行不能ニ陥リ心臟及咽喉

惡クナル此ノ病ニ罹リタル者ハ殆ト死亡スルモ死亡率ハ下痢

ニ比シ稍々少シ

3 其他

肺病ハ七一八%位心臟病、頭痛、風邪、リユーマチズム等ハ少數ナ

リ種々稀ニ淋病等ノ花柳病アリ又精神病患者アルモ數不明

八 患者ニ對スル賄ノ狀況等

九 基本的賄

朝、魚スープ(名稱ノミニシテ實際ハ鹽スープ)一杯

晝、野菜スープ一杯(又ハカツレツ一片肉燉食一個)

夕、魚スープ一杯

(パンハ一日八〇〇瓦ニシテ内譯小麥パン四〇〇瓦燕麥パン四〇

〇瓦、茶代用トシテ白湯ヲ用フ

以前一日四〇瓦ノ砂糖ヲ支給セラレタル事アル由ナルモバシール

リカ入院中ニハ全然支給セラレタル事ナシ)

2. 其他

下痢患者ニハ一日一〇〇一ニ〇〇一三〇〇瓦ノ乾麴麴スハ一リタヲ
與フ

重症患者ニハ一日一〇瓦ノバター及一日牛乳一杯ヲ與フ

壊血病患者ニハ一日玉葱若干又ハ大蒜二片（）ヲ與フ

九. 患者中ノ死亡者

1. 死亡者ハ一日一〇名一五名一二五名位宛アリ

2. 之等ハ死亡前看護卒又ハ知合ヒノ入院患者ニ依頼シテ遺言書ヲ認メ
シムルヲ通例トス

此ノ遺言書ノ内容ハ死亡ノ理由ヲ述ヘラレテ生活ノ苦境ヲ悶々タ
ル状態ヲ以テ流ヘ居リ宛名ヲ書取ラシム名宛人ハ父、母、妻叔父等
ナリ

此ノ遺言書ハ病院（）附シアル郵便受函ヲ開キ封ノ儘切手ヲ貼ラヌ
シテ投函セラレ一ヶ月二回第三部（ツレ一チヤ、チヤスチ）ニ送ラ
ル

此ノ第三部ハ内務人民委員部ニ所屬シ居ルモノナルカ之等ノ手紙ハ
此處ニテ檢閲ヲ受ケタル上處理セララルモノナルニ依リ果シテ宛名
配達ス可ク發送セラレ居ルヤ疑問ナリ

尙右第三部ノ所在地ハ不明ナリ

3. 醫師長カバシ（）ニ洩シタル處ニ依レハ全ラ（）ゲリノ罹病者中二五
%カ生き殘レハ良キ方ナリト

4. 患者或ハ死亡者ニ對シアル（）ル等ノ消毒藥ヲ用イ居リタルヲバシ
（）リカ目撃シタル事ナシ

5. 入院患者中死亡者ノ屍体ハ衣服ヲ剥キテ全クノ裸体トシテ病院附近
ニ掘リタル穴ニ埋葬ス

穴ノ大キサハ死亡者ノ數ニ依リテ異ル例ヘハ一〇人ノ屍体ヲ埋ムル
ニハ深サ三・五米乃至三米巾二米長サ三・五米位ノ穴ヲ掘リ前述ノ如ク
裸体トシテ屍体ヲ此ノ中ニ投シテ處理スルモノトス
之等ノ死亡者ハ同シヤ人、アル（）ニヤ人、トルコ人等大体ニ於テ一
日ノ死亡者ヲ取繼メ同一ノ穴ニ埋ムルモノナリ冬期ハ埋葬セムトス
ル前夜地上ニ薪ヲ積ミテ燃ヤシ翌日其處ヲ掘リテ穴ヲ作ル

一〇 藥品及醫療用品

藥品ハ全ク無シト云フモ過言ニ非ス從ツテ患者ニ對シ投藥シタルヲ見タル事ナシ僅ニ塗藥、カ―ゼ、繃帶、ヨ―ド、吸藥等ノミアリナ支給セラル

バシ―リカ醫師長ニ對シ金ヲ出スカラ藥ヲ惠マレ度キ旨懇願セン處一藥ハ全ク無シ以前ハ外國ヨリ購入シ居リタルモ現今ハ其レカ不可能ナリト洩シタリ

(註、醫療用品、アルコ―ル類、砂糖ノ缺乏ハ前記ノ事實ニ依リ證明シ得ラル可シ)

ロ、第九ラ―ゲリ附近ノラ―ゲリ大病院

一、此ノ病院ハイノ項ニテ述ヘタル病院ノ南方ヲ東南方ニ流ルル小河ノ上流ニ(第七ラ―ゲリ北方ニテ二本ノ支流トナル)沿ヒ第七ラ―ゲリヨリ左側ノ川ニ沿ヒテ溯リ第八ラ―ゲリノ上流數軒ノ地點ニ至レハ第九ラ―ゲリアリテ此ノ第九ラ―ゲリノ附近ニ位置スルモノナルモ正確ニハ位置、大キサ、建物ノ狀況等不明ナリ

7

一、此ノ病院ハ一九三九年十一月頃約五〇〇名ノ患者ヲ收容シ居リタリ

二、右ノ事項ハバシ―リカ第一ラ―ゲリ附近ノ病院ニ入院中ニ同シク入院中ナリシ一患者ヨリ「第九ラ―ゲリ附近ノ病院ニ送ラレタルモ満員ノ爲此處ニ送ラレタリ」トテソノ端ヲ洩シタルヲ聞知シタルモノナリ

三、此ノ病院ニ於ケル患者ノ死亡率ハ第一ラ―ゲリ附近ノ大病院及第三ラ―ゲリヲ改造シタル大病院ニ比シ更ニ多シ

四、右ハ第一ラ―ゲリ附近ノ大病院ニ入院中ノバシ―リカ醫師長ヨリ第九ラ―ゲリ附近ノ病院テハ死亡者カ此處ヨリモ多イカラ近ク自分カ其處ニ派遣セラレル咎タ―ト洩シタル事ニ依リ又第三ラ―ゲリヲ改造シタル病院ニ於ケル死亡者數カ第一ラ―ゲリ附近ノ病院ニ於ケル死亡者數ヨリ稍少キ事ヲバシ―リ自身カ目撃セシ事實ニ依リ尠ク歸定シ得ルモノナリ

五、死亡者ノ大多數ハ下痢ニ依ル

ハ、第三ラ―ゲリヲ改造シタル大病院

一、註。バシ―リハ此ノ病院ニ康德七年二月―三月ニ亘リ入院セリト

一、病院ノ位置等

第二ラ―ゲリト第四ラ―ゲリトノ中間ニ位シ囚人中罹病者續出セシ
爲第三ラ―ゲリ宿舍全部ヲ之ニ充當セシモノナリ（三ノ項参照）

二、病院ノ創設年

一九四〇年一月第三ラ―ゲリヲ改造創設ス

三、病院ノ目的收容力

ノ從來ノ收容設備ノミヲ以テシテハ罹病者續出シ狹隘ニシテ收容不
能ノ爲設ケタルモノニシテ一九四〇年二月至三月ノ收容人員ハ約
四五〇―五〇〇名ナリ（一九四〇年三月此ノ病院ノ看護長ノ言ニ
依レハ近ク一〇〇名以上ノ患者ヲ更ニ收容スル豫定ナリト
2. 從ツテ此ノ病院ノ收容力ハ相當大キク患者約一五〇〇名ヲ收容シ
得可シ

3. 病室ノ内部ハ二階式棚床ナルモ患者ハ一九四〇年三月頃迄ハ何レ
モ上部棚床ヲ使用セス下部ノミニ臥床ス

四、醫師

露人男（三五―三七年位）

2. 主任醫師 露人男 ニコライ、イワーノウイチ（三〇―三二年位）
3. 醫師 露人男三名（但シ此ノ三名ハレフコムト稱セラレ正式醫師ニ非ス）
計 五名

右ハ何レモ囚人ナル事ハ彼等自身ノ言ニ依リ判明ス
五、病院勤務者

前記ノ醫師ノ外

ノ各病棟ニ看護長各一名看護卒各一名宛勤務ス（註九病棟ナルニ依リ看護
長九看護卒九名計十八名勤務スルモノノ如キモ病棟ニ大小アル
ニ依リ詳細不明ナリ）

2. 病院事務所ニハ病院長露人男氏名不明（四〇年位）執務ス。囚人
ナリ

3. 右事務所ニハ經理係一名アリ露人男ナリ

4. 其他事務員若干名アリ（囚人）

5. 理髮所ニ露人理髮師一名アリ（囚人）

6. 浴場ニ露人及トルコ族ノ雜役夫三一四名アリ

7. 洗濯女ハ露人、アルダニヤ人等ニシテ七八名ノ總員ト思料セラル

8. 警備員

一同ニ警備ニ就ク人員ハ四一五名ナルモノノ如キモ之ト交代スル
警備員アリ數不明

露人、タタール人等アルモトルコ族、ワズベク人、アルダニヤ人
グルヂヤ人等ニシテ警備員タル者ナシ

9. 炊事場ニハ四一五名ノ露人男就勞ス

10. 食料品配給所ニハ主任一助手一名計二名アリ何レモ露人男ナリ

六. 收容患者ノ民族別

最モ多シ（土耳古族、ワズベク人（七〇％））

其他 回シヤ人

アルダニヤ人

グルヂヤ人

七. 收容患者病名別

最モ多キモノ 下痢

收容患者數ノ三〇一三五％位

下痢患者ハ罹病者中最モ死亡數高シ

2. 次位 凍傷

收容患者數ノ一〇一五％

3. 三位 壞血病

收容患者數ノ一〇一一％

4. 其他

風邪、失臟病、頭痛、腸病、鬱毒等アリ

八. 患者ニ對スル賄ノ狀況等

イ、ノ頃ト略々同一ニ付省略ス

九. 藥品及治療用品

水藥、散藥、煎藥等殆ト全ク無ク僅ニヨード吸止メ藥、ガーゼ、繃
帶等アルニ過キス

注射器ハアレトモ注射液無シ体温計ノミハ用ヒアリ

一〇. 患者中ノ死亡者

死亡者ハ一日九名一五名位宛ニシテ死亡ノ狀況ハ大体ニ於テ第一
等ノ病院附近ノ大病院ト略々同様ナルモ右ニ比シ死亡者數ハ稍渺シ

ニ、各ラーゲリ内ノ小病院

一、ラーゲリ内ノ小病院數

第一ラーゲリヨリ第一〇ラーゲリニ至ル一〇個ノラーゲリニハ各々
小病院一個宛アル事ハ略々確實ナリ

但シ第三ラーゲリハ以前ハ右ト同シク小病院ヲ有セシモ一九四〇年
一月同ラーゲリ宿舍ヲ病院ニ改メ同年二月現在患者約四五〇名乃至
五〇〇名ヲ收容セリ從ツテ第二ラーゲリニ收容セシ囚人ハ爾余ノ各
ラーゲリニ分散配屬セラレタリ

三、各ラーゲリ小病院ノ收容患者數

第一ラーゲリ	不明
第二ラーゲリ	不明
第三ラーゲリ	不明
第四ラーゲリ	不明
第五同	不明
第六同	不明
第七同	一七〇名乃至二〇〇名
第八同	不明
第九同	不明

第一〇ラーゲリ 不明

三、第七ラーゲリ内小病院

(註、パシーリハ此ノ病院ニ一九三九年十一月及一九四〇年四月ノ

二回ニ亘リ入院セリト)

一、ラーゲリ宿舍ノ一部(二五米ノ二〇米位)ヲ之ニ充當ス

二、患者數ハ一九四〇年四月現在ニ於テ一五〇一二〇〇名位ニシテ給

七ラーゲリ囚人中ノ惟病者ヲ收容ス内部ハ二段式棚床ナリ

三、此ノ病院ノ收容患者中ノ重症者及收容能力ニ比シテ患者ノ數ヲ超

過セル際ハ之等ヲ大病院ニ送ルモノナリ

四、醫師ハ露人男三土耳其族男三計四名ニシテ何レモ囚人ナリ但シ之

等ノ醫師ハラエリシエルト稱セラレ或ハ新シキ言葉ニテレフコト

ト稱セラレ正式ノ醫師ニ非ス

五、露人男三土耳其族男一名計三名ノ看護卒アリ此ノ看護卒モ亦囚人

ニシテ病人ノ看護ニ當ル外雜役ニ従事ス

六、入院患者ハ大体次ノ順位ナリ

約七〇%土耳其族

次位 回シヤ人
三位 グルヂヤ人

入院患者ノ病名別ハ一九四〇年三月現在

三〇・一三五% 下痢(パノース)

一〇・一二% 壊血病

其他ハ心臟病、頭痛、リユーマチーヅム等ナリ

(一九三九年一〇月此ノ病院ニ收容セラレタル露人二名他民族一

名計三名ノ精神病患者アリタルモ終夜叫ビ廻リ喧シキヲ以テ之

ヲ大病院ニ送りタリ)

一九四〇年三月現在此ノ病院ノ患者ニシテ死亡セル者ハ一日四名

一五名一七名一九名位ニシテ死亡者ノ大多數ハ下痢(パノース)

次位ハ壊血病患者ナリ

下痢(パノース)ニ依ル死亡率ハ下痢患者ノ約九七%壊血病ニ依ル

死亡率ハ壊血病患者ノ六〇%位ナリ

患者ニ對スル賄ノ状況ハイノ項ト略々同様ナリ

藥品カ殆ト全ク缺乏シ居レル状態ハ同シクイノ項ニ於テ述ヘタル

ト同様ナリ

15

ホ、其他

一、病院内ニテ患者ニ支給スル毛布

ノ第一ラゲリ附近ノ大病院

二、三人ニ毛布一枚位ノ割合ナリ

三、第三ラゲリヲ改造セル大病院

毛布ナシ從ツテ一部ノ患者ハ個人所有ノ毛布ヲ用イルモ大多數ノ

患者ハ私物毛布ヲ所有シ居ラサルニ付外套ヲ以テ代用シ外套ナキ

者ハシヤツヲ以テ身体ヲ蔽フ有様ナリ

四、第七ラゲリ内小病院ニハ毛布ナカリシモ一九四〇年三月頃五六

〇枚ノ毛布カ支給セラレタル由ナリ

五、枕ハ何レノ病院ニモ無ク頭部ヲ斜ニ張りアル腰板ノ上ニノセテ臥床

ス

三、薬布團(マト)ニ

第一病院ノミニ在ルモ其他ニハナシ此ノ薬布團ニ乾草ヲ入ル

四、寄生蟲ハ建物カ新シキ爲何レノ病院ニモ發見セス但シ第三ラゲリ

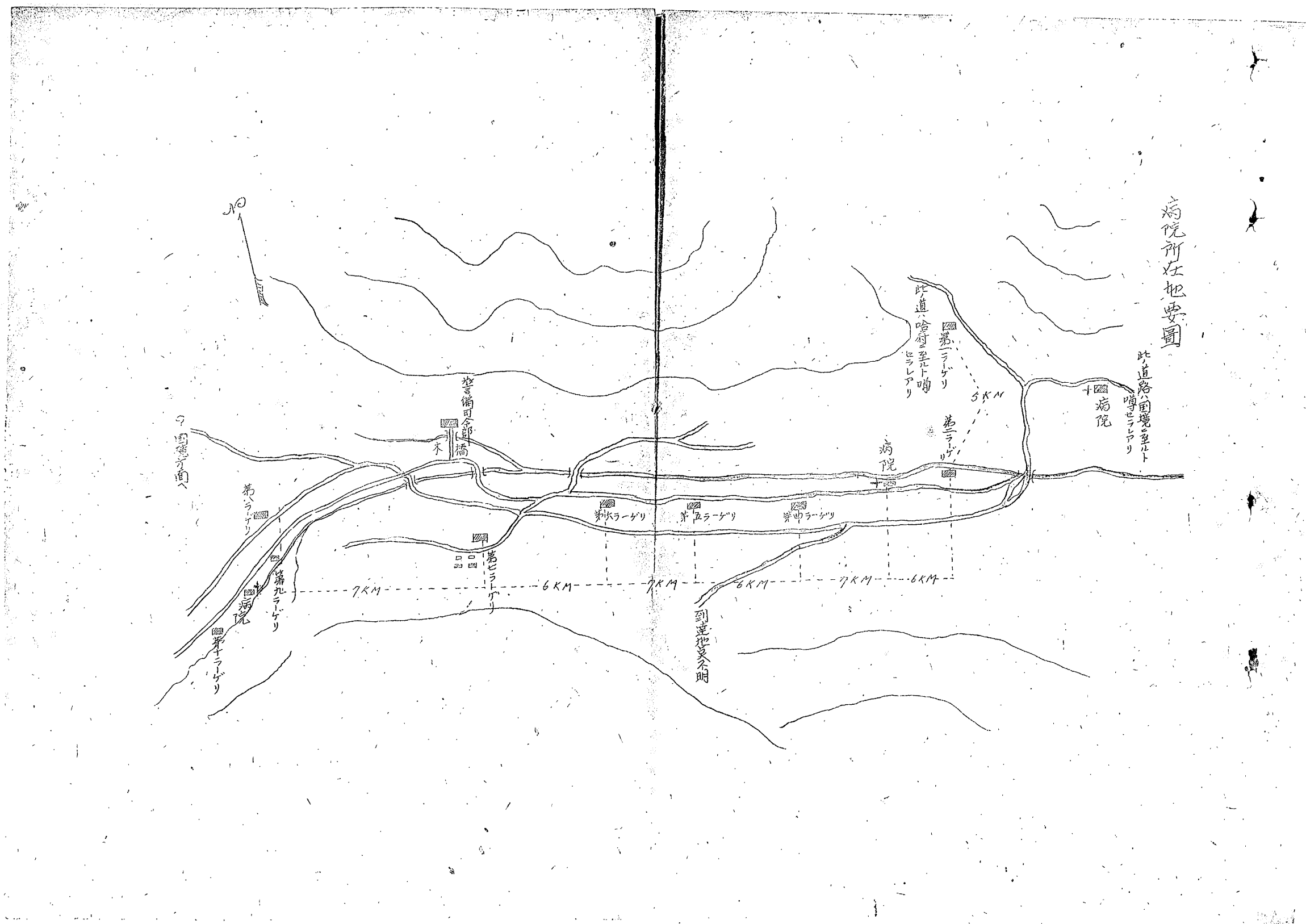
ヲ改造セル大病院ノミニハ一病棟ニ南京蟲若干居ル由ヲ聞キタリ

16

右ハ冬期間ナリシヲ以テ夏期ハ不明ナリ
五バシ―リカ歐露ヨリ第七ラ―ゲリニ送ラレテ以來何月頃カ最モ罹病
者多數アリシヤニ關シテハ詳細不明ナルモ大体ニ於テ一九三九年十
一月頃ニ比シ一九四〇年四月頃カ多數罹病者アリシヤニ思料セラル
六第一ラ―ゲリ附近ノ大病院及第三ラ―ゲリヲ改造シタル大病院ニバ
シ―リカ送ラレタル時ハトラツクニ依リタリ此ノ際病院ニ到着スル
ヤ醫務室ニ入レラレ醫師ヨリ聴診器ニテ診斷ヲ受ケ体温計ニテ溫度
ヲ計ラレ患者ヲ各病棟ニ配分セラル
右大病院ニテハバシ―リノ病室ニ醫師カ巡回シ來リタルハ概ネ正午
頃ニシテ右二個所ノ病院ニ於テハ回診ハ一日一回行ハルルモノノ如
シ
第七ラ―ゲリノ小病院ニテモ前記同様診察時ニハ体暖計及聴診器ヲ
用フルモ回診時間ハ或ハ朝或ハ夜間ニ來ル等一定シ居ラス
ヘ、所見
ノ此ノ情報中ノ「下痢」(バノ―ス)ハ赤痢ニ非スヤト思料セラル

17

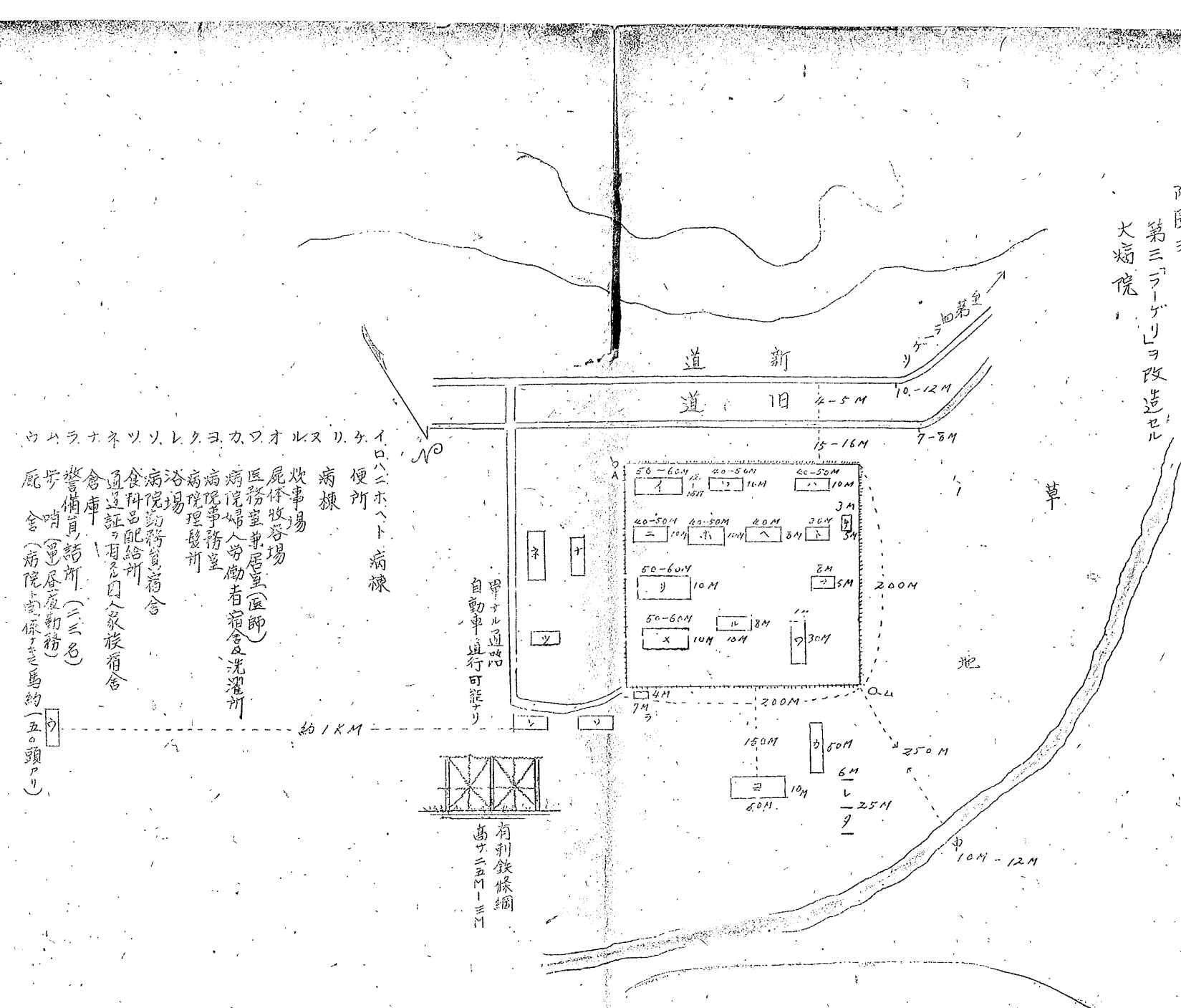
2. 入院患者中死亡者多キハ醫療設備不完全ナルニ依ル事ヨリモ寧ロ勞
働者ノ平素ニ於ケル保健施設惡シク賄ノ不良ニ依ル營養不良及藥品
ノ缺乏ニ依ル醫療ノ不完全ト消毒ヲ爲ササル事ニ起因スルモノノ如
シ
3. 殊ニ壞血病患者カ發生スル事多數ニ及フハ營養不良ニ起因スル證左
ナル可シ
4. 右ニ述ヘタハ事象ハ結局世界情勢ニ基キ蘇領内ノ物資カ極度ニ缺乏
シ居レル事ヲ如實ニ物語ルモノナル可シ
5. 將來蘇領ヨリノ不正入滿者ニ對シテハ當方ニ於テ檢疫ヲ實施スルヲ
要シ從ツテ相當ノ施設ヲ要ス可キモノト信ス



I-0541

004:

附圖三
第三ラゲリヲ改造セル
大病院



I-0541

0044

第三課長

記録係

別紙添付

疎領機密第五九號

昭和十四年七月二十六日

在理春

領事 龍山 武 郎

情 14.8.1. 庶

記

分類 I 3, 1, 0, 2

第二課長

在理春

時命全權大使

植田 謙吉 殿

南島沿海州ニ於ケル衛生ノ概況ニ關スル件

本件ニ關シ特務機關ヨリ入手セル情報別紙ノ通ニ付此段報告申進ス

第三課長

本署寫送付先

外務大臣

ノ情

(地 生誌)

昭和十四、七、一三

南島及沿海州ニ於ケル衛生ノ概況

出 所

本情報ハ昭和八年乃至十二年ニ亘ル間「ソ」領ヨリ歸來セル日滿鮮人(機關員〇〇ハ以前長年蘇聯内ニ居住シ各地ノ事情ニ精通シアリ)ニ就キ調査シタル概況ニシテ概ネ確實ナルモノト信ス(但シ鮮人強制移住前ノモノナリ)

本文(確度乙一丙)

一一般狀況

本地方一帯ニ於ケル住民ノ對衛生思想乏シク且療養ノ機關充實セス只浦鹽ノ外「ラズドリノエ」「バラバシ」煙秋「ボセツト」ニ陸軍病院ノ

I-0541

0045

外國立病院私立病院アルノミニシテ地方一帯ノ恩惠ニハ寄與シ非ス而シテ從來鮮支人ノ輿地強制移住前ニ於テハ各地方村落ニモ漢方醫及藥舖等アリタルモ未タ稚態保留ノ域ヲ脱シアラサルモノノ如シ
帝政ノ頃有資産者ノミ都市ノ病院ニ入り治療シタルヲ聞クモ一般中流社會ニ於テハ斯克コトナシト又蘇人家屋ノ構造ハ概シテ室内換氣採光設備チ有シ冬期ハ防寒二重窓チ有スルモ鮮支人家屋ニ於テハ其構造極メテ不完全ナル藁葺ノ溫突式ナリ且兩者共家屋ノ周圍ニ排水溝ヲ設クルコトナク便所ハ不潔ニ委シ又給水ハ殆ント河水ニ依存シ井戸ハ鹽埃防止ノ設備チ施サス何レモ病菌ノ好棲息地トナリ各地共四季傳染病ノ絶ユルコトナシ更ニ又南島地方ハ一般ニ青壯年ノ別ナク肺結核ニ斃ルモノ多シ又浦鹽市内一流ノ飲食店等ニ於テモ夏季食料品ニ蠅ノ蟬集スルヲ放置シ牛乳ノ加熱殺菌ハ營業價值ヲ失フトノ誤謬ニ拘泥シ生ノ蠅飲用シ「パン」ヲ無包裝ノ儘販賣シアル狀況ナリ極東軍事ノ中心地タ

ル浦鹽ニ於テ斯克ノ如シ況ンヤ農村僻地ニ於テオヤ
施設

第二次五ヶ年計畫ノ進捗ト共ニ當局ニ於テモ之等ノ施設チ重要視スルニ至リ各地ニ亘リテ大擴張チ行ヒ歐露ヨリ醫師チ増派シ蘇城炭坑「アルチヨーム」炭坑地帯及其他ニ收容力一五〇名以上ノ病院ヲ建設シ或ハ浦鹽「ラズドリノイエ」「シコトワ」等ノ既設病院チ擴大シ細菌學ノ研究豫防注射藥ノ製造等チ行ヒ或ハ公設入浴場チ設ケ入浴ヲ勸メ日光々線療法等ノコトチ宣傳シアリト雖モ之等ハ皆繁華ノ都市ノミニシテ農村僻地ニアリテハ舊態依然タリ「ラズドリノイエ」以南ノ衛生施設モ逐年整備チ行ヒツツアルモ其進捗遅々トシテ其内容設備勤務ハ一時的の方便職務上ノ狹少義務タルカ如シ
ニ傳染病ノ狀況

腸「チブス」發疹「チブス」赤痢最も多ク性病天然痘モ亦多シ「チ

「アス」ハ四季ニ發生シ赤痢ハ夏期最も盛シナリ最も恐ルヘキハ腸「チブス」ナリ一度本病ノ或家庭ニ入ルヤ必ス家族全員ニ及ホシ其死亡率ハ十中ノ六迄アリト最近政府ヨリ強制豫防接種並ニ注射行ハレアルヲ以テ聊カ安シアリト雖モ依然減少シアラス偶々本陳述人在蘇ノ頃春季發病シ三日間下痢ヲナシ發熱ト共ニ全身ニ發疹ヲ生シ之ヲ見舞ヒタル友人ニ傳染シ更ニ其ノ妻ニモ感染セリト此間約十五日ニシテ病後極度ニ衰弱シ其回復ヲ危クセリト日本人ノ初メテ入國スル場合ハ必ス豫防接種注射ヲ行ヒ飲料水ハ必ス煮沸水ニ俟タサル可ラス尙蘇人男性ノ九割ハ性病帶患者ナリト

所見

本情報ハ主トシテ鮮人強制移住前ノ在蘇居住者ニ就キ調査シタル概況ニシテ稍々舊情ニ屬スルコトト被調査者又此種智識ニ乏シキタメ極メテ概念的ノモノナリ

而シテ現在ノ整備狀況ニ關シテハ爾後ノ調査ニ俟タサルヘカラサルモ移住前（三年前）ニ於テ斯克ノ如キ狀況ニ於テハ長足ノ進歩ナク依然舊態ヲ脱セサルモノト判斷セラル

醫療機關調査表

(配置状況別紙要圖参照)

所在地	病院名	病院数	収容力	摘要
浦	市病院	一	一〇〇〇	建坪三千平方メートル、二階建、ノモノ六、同二千
海	軍病院	一	一三〇〇	平方米二階建、ノモノ六、附屬建物、他、二、千
陸	軍病院	一	二〇〇〇	巴サノフスカヤ街ニ急救車十輛アリ
鐵	道病院	一	七〇	
海	員病院	一		建坪二千平方メートル、二階建、船員(内外)
電	氣療養所	一	三〇〇	船會社關係診療チナス
極	東工廠病院	一	三〇	療養所
二	番川極東海軍病院	一		
ウ	ラシミロア	一	一五〇	
レ	クサンドロ	一	一五〇	
フ	スコエ	一	一五〇	
蘇	城	一	一五〇	

蘇	城	立	病院	一	一五〇	
シ	コトウオ	立	病院	一	一五〇	
アル	チヨーム	立	病院	一	一五〇	
バ	ラバシ	立	病院	一	一五〇	
ス	ラウヤンカ	立	病院	一	二〇〇	
テ	イゼ	立	病院	一	一〇〇	
煙	秋	立	病院	一	二〇〇	
ボ	セツト	立	病院	一	一五〇	
ラ	ズドリノエ	立	病院	一	二〇〇	

I-0541

0048